

事業名	視覚障害者援護費		調書番号	29
細事業名	点字図書館運営費補助金	財務コード	080701	
担当部課室	福祉保健 部 障害福祉 課 地域生活支援 担当 (内線)	3220		

I 事業の概要

実施期間	始期 S30 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	補助((福)山梨ライトハウス)		
目的	だれ(何)を対象に	その対象をどのような状態にして	結果、何に結びつけるのか
	視覚障害者	視覚障害者が、図書の貸出の他、テレフォン情報サービス、新聞リーディング等のサービスを利用することができる。	視覚障害者の社会参加の促進
内容	社会福祉法人山梨ライトハウスが運営する点字図書館に要する経費の補助 ・補助先:(福)山梨ライトハウス ・補助率10/10 ・補助対象事業:点字図書館が行う事業 (点字録音図書等の貸出、福祉ニュース及び県イベント等のテレフォンサービス、新聞リーディング等のサービス) ・開館日:月曜日～土曜日 午前8時30分～午後5時15分		

II 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

区分	指標	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31(R1)年度	R2年度	
活動指標	一人あたり図書貸出数 点字・録音・拡大図書/視覚障害者数	目標	13.0	13.0	17.0	16.0	16.0	18.0	18.0
		実績(見込)	12.9	16.4	15.7	15.4	17.3	18.0	
		達成率	99.5%	126.4%	92.4%	96.1%	108.1%	100.0%	
		達成区分	b	b	b	b	b	b	
成果指標	年間貸出数 点字・録音・拡大図書	目標	33,000	33,000	38,000	36,000	35,000	38,000	38,000
		実績(見込)	32,606	37,503	35,736	34,858	39,204	38,000	
		達成率	98.8%	113.6%	94.0%	96.8%	112.0%	100.0%	
		達成区分	b	b	b	b	b	b	
決算(予算) 単位:千円		40,681	41,312	40,832	40,832	40,364	40,128	39,900	

III 事業の評価(平成30年度の業績評価)

活動指標	b	評価	一人あたりの貸出数は前年を上回る目標設定値とし、直近5年間の平均で104.5%の達成率となっている。一定の活動量は維持できているが達成率には波があり、より安定した貸出状況を目指したい。
成果指標	b		点字図書館事業の目的は、視覚障害者に対する情報提供拠点としての機能の充実である。平成28年度、29年度は貸出数が減少したものの、30年度は大幅な増加に転じており、目標達成のためには今年度以降の継続を図る工夫が必要である。

- ・「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。
- ・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

IV 見直しの必要性(令和2年度に向けた改善等の考え方)

関係与の必要性	判定	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性が高い	<input type="checkbox"/> 必要性がある程度認められる	<input type="checkbox"/> 必要性が低い
	説明	<input type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input checked="" type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている <input type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる <input type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。 <input type="checkbox"/> その他 ()		
有効性(成果向上)	判定	<input type="checkbox"/> 大幅な成果向上が可能	<input checked="" type="checkbox"/> 成果向上が可能	<input type="checkbox"/> 成果向上はあまり望めない
	説明	点字図書館は県内の視覚障害者より高い支持を受けており、今後も重要な情報拠点としてのサービス拡充が期待される。		
見直しの余地	判定	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある程度ある	<input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がない
	説明	<input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある <input type="checkbox"/> その他 ()		
その他	説明			
見直しの必要性	無	実施体制や進め方について、これ以上の効率化や予算削減は難しいため、これまでと同様の進め方で、今後も事業を行っていきたい。		

V 見直しの方向(令和2年度当初予算等での対応状況)

現行どおり	説明
-------	----

- ・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、IV見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。